

住民の主体的な学びを支援するための「参加型学習」に関する研修コンテンツ開発

～広島県立生涯学習センターの研修事業の改善・開発に向けて～

広島県立生涯学習センター
社会教育主事 大名 克英

調査研究の概要

本調査研究では、当センターが開発を行っている研修コンテンツの活用方法を見直し、効果的なものに改めていくとともに、今後需要が高まっていく「参加型学習」に関する研修コンテンツについて、実際の市町で研修を行うために改善を加えた内容を明らかにしようとしている。

生涯学習振興・社会教育行政では、住民の主体的な学びを支援するために「参加型学習」を企画・運営する技能を身に付けることがより求められている。この技能は、生涯学習や社会教育の分野では古くから必要とされていたものであるが、今、改めて、その意義が強調されている。一方的な伝達のみによって養われるものではなく、体験による試行錯誤が加わることによって育まれるものであり、まさに研修によって身に付いてくるものである。

現在、センターには、これに関わる研修コンテンツとして、「参加型学習の基礎知識」があるが、依頼のあった研修にそのまま使う内容としては適当ではない。なぜなら実際に市町実施の職員研修で活用する場合には、研修の目的・目標や対象者に応じてアレンジを加えていくこととなり、その都度、内容は異なってくるものであるからである。そこで、本研究では、今年度、「参加型学習」をテーマにした研修を実施している廿日市市市民センター職員研修でのコンテンツ作りと絡めて、成人学習の特性を生かした視点を踏まえた参加型学習の必要性について明らかにしていくこととする。

当センターが、研修コンテンツをホームページに掲載する意味を、改めて考え直してみると、大きく二つの目的がある。一つは、eラーニングの機能、つまり電子媒体を用いて学習することができる機能を持たせること、もう一つは、パンフレットの機能、つまり、他の自治体でどのような研修がどのような内容で行われているかを知るための機能を持たせることの二つである。これまでは、これらの機能を区別せず、一緒にしてホームページに掲載していたが、この二つの機能に整理して、ホームページに掲載することで、欲する情報を把握しやすくできるようになると考えている。

今後の課題として、これまでの活用方法に加え、当センター主催研修の事前学習として活用することを考えていきたい。特に、平成28年度から新設する社会教育主事等研修において、「参加型学習」をテーマにした内容を扱うこととしているので、そこで活用していきたい。

調査研究の構成

研究テーマ設定の理由

- 1 当センターの研修コンテンツの現状
- 2 「参加型学習の必要性について」研修コンテンツ
 - (1) なぜ参加型学習の手法が必要とされているのか
 - (2) 参加型学習において、職員は何をすべきであるか
 - (3) 子供っぽい学びと大人っぽい学び
 - (4) 学びの変革アクションプラン～広島県教育委員会の取組～
 - (5) チームとしての取組の視点から
- 3 広島県立生涯学習センターの研修事業の今後について
- 4 今後の研修コンテンツについて

参考文献

住民の主体的な学びを支援するための 「参加型学習」に関する研修コンテンツ開発

～広島県立生涯学習センターの研修事業の改善・開発に向けて～

広島県立生涯学習センター
社会教育主事 大名 克英

研究テーマ設定の理由

当センターが開発を行っている研修コンテンツの活用方法を見直し、効果的なものに改めていくとともに、今後需要が高まってくる「参加型学習」に関する研修コンテンツについて、実際の市町で行うために開発した内容を明らかにする方法を探る。

当センターの研修コンテンツの現状

研修コンテンツとは

市町における関係職員の研修に活用できる教材等。

当センターでは、生涯学習振興・社会教育関係職員等研修や地域課題対応研修支援での実践で使用した教材を、ホームページに掲載している。

参加型学習が求められる背景

①これまで知識・理解を重視していた

②参加型学習を支援する職員像が求められる

→廿日市市市民センター職員研修において、実際にオーダーがあり、活用するために開発し、実施をした。

研究テーマ

ここからのページが、廿日市市市民センター職員研修会において、実際に活用したコンテンツです。

参加型学習の必要性について

県立生涯学習センター
社会教育主事 大名 克英

話の流れ

「参加型学習について」

- 1 プロローグ **そもそも参加型学習とは**
- 2 われわれ職員は何をすべきであるか
- 3 子供っぽい学びと大人っぽい学び
- 4 チームとしての取組の視点から
- 5 エピローグ

1 プロローグ

そもそも参加型学習とは

**経験や意見の交流を通して、
お互いに学び合い、
参加者の主体的な学びを促進する
学習方法**

参加型学習のスタイル

- ・ 講義などの一方向的な知識伝達スタイルではない。
- ・ 参加者自らが参加して学び合う。
- ・ 参加者が学習効果を分かち合う。

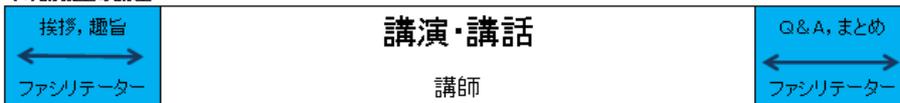
2 われわれ職員は何をすべきであるか

私達のすべきことは・・・



●ファシリテーターとしての社会教育関係職員の役割

(1) 講義型の講座



(2) 講師がいるが、グループワークを担当



(3) 講座の進行のすべてを担当



担当者のファシリテーターとしての関与の度合い

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター『参加体験型学習ハンドブック』平成21年.3, p.63

2 われわれ職員は何をすべきであるか

ファシリテーターとは、学びを促進する人【生涯学習e辞典】

ファシリテーターの役割

- ・人が集まった場における進行
- ・参加者の雰囲気づくり (例：約束…発言の平等，発言の肯定等)
- ・学習活動の深化・活性化への支援

ファシリテーターとしての心がけ

- ・人の話をよく聞く。
- ・ポイントを整理する。
- ・お互いに納得できる合意を作る。

2 われわれ職員は何をすべきであるか

ファシリテーションは仕事なの？ 指導役を担わないといけないの？

○公共の仕事の役割が変わってきた。

- ・住民からの意見を
聞き取る，吸い取る，拾い上げる。
- 重要な役割が増している。

- ・ここにいる時に，学ぶことができるチャンス。
- ・今，求められていることをより現実的に知るチャンス。

○新たな**相互作用**への期待。

手法としての「参加型学習」を浸透させていく意義

2 われわれ職員は何をすべきであるか

「参加者同士で情報交流したからOK？」

「意見を聞いておいたからOK？」

**○学習形態や手法を用いることが、
目的となっているケースも起こりうる。**

参加型学習を実施したとしても・・・

① マンネリ化してしまっている・やらされ感

② 成果が見えない・もやもや感

③ 一人でやりたい

○参加者が、目的達成に近づいていないことも…。

コラム 広島経済大学志々田まなみ教授



きけん!

「社会教育活動＝まちづくり」、あるいは、「社会教育活動＝子ども支援・高齢者支援、〇〇ボランティア」という誤解

地域振興
安心安全のまちづくり

**子ども支援
高齢者支援**

社会教育

**「社会教育」の
教育機能の空洞化**

3 子どもっぽい学びと大人っぽい学び

成人教育の視点から

- ・「経験」を共有したり，学習の「経験」をすぐに活かすことが、大人っぽい学びを促進するコツ
- ・参加者の学ぶ力・活動する力を，多面的に育むことが必要

活用の場につなげられない講座・研修会は
あまり意味がない
(成果の社会的還元)

次に何をしたいか・すべきかを、みんなで考える
機会を日頃から作る
(中期的計画)

「社会総がかり」の教育再生の中核は社会教育のはず！

コラム 学びの変革アクションプラン

～広島県教育委員会の取組～

やりたいこと，実現したいことをしっかり持って，様々な人々と協働しながら解決策を見出し，行動できる力を培っていく。

知識伝達型の学びでなく

●知識 ●スキル ●意欲・態度 ●価値観・倫理観

これらの向上を目指した主体的な学びを重視しよう。

【INPUT】
知識

活用
協働

【OUTPUT】
～できる

「知識を活用し，協働して新たな価値を
生み出せるか」

4 チームとしての取組の視点から

廿日市市市民センター職員研修

廿日市市市民センター職員研修自体が、まさにチームとしての取組。

- みんなで集まって語り合う。
 - ・地域性を考えて、1か所→2か所へ。
- 小グループでの話し合い。
 - ・それぞれの経験からの考えを出し合う。
 - ・それぞれが気づく。

学び合いによる連携・協働

4 チームとしての取組の視点から

時間 と 信頼

第1段階	第2段階	第3段階	第4段階
networking	coordinating	cooperating	collaborating
※情報を交換する	※情報を交換する ※ともに活動しやすいよう既存の活動を変更する	※情報を交換する ※同じビジョンにむかって活動を計画、実施する ※設備や人材、資金、技術を提供しあう	※情報を交換する ※同じビジョンにむかって活動を計画、実施する ※設備や人材、資金、技術を提供しあう ※連携相手の活動の充実のために支援しあう

隔たり

「協働」関係の成熟段階 (Himmelman, T., Collaboration for a Chance - Definitions, Decision-making models, Roles, and Collaboration Process Guide, HIMMELMAN Consulting, 2002等を参考に作成)

5 まとめ

まずは、できることから考えてみましょう！！

「参加型で、できることはないかな？」

「どんなことができるかな？」

「一緒に動いてほしいことって、どんなことがあるかな？」

ここまでが、廿日市市市民センター職員研修会において、実際に活用したコンテンツです。

廿日市市市民センター研修における 事後の感想



- ・できるところから、参加型学習の手法を取り入れていけば良いことが分かった。
- ・現在の事業や講座を運営するときに、できることもありそう。
- ・講義を聞くだけでなく、グループワークを行うことで、実務と関連した学びがあった。

単なる講義に終わらず、その後に主催者企画によるグループワークを取り入れたことが効果的であった。研修内容を、共に作り上げていく、新しい形の研修として実施することができた。

広島県立生涯学習センターの研修事業の今後について

○市や町の状況や要望に応じたオーダーメイド型の研修の創出

・訪問型研修に軸足を置いた各市町での研修実施に向けた支援を行っていく。

○ICTを活用した新しい研修の創出

・コンピュータをメディアとする活動(eラーニング)を事前に行い、そこで得た知識を応用して学びを深めていく等、新しい研修の手法を考えていく。

※今後、市町職員の業務が増え、時空間の制約が大きくなる傾向が強まることが予想される。そうしたことに対応できるように、ICTを活用した新しい研修に力を入れていくことが求められている。

今後の研修コンテンツについて

～活用充実のためのホームページへの掲載方法の工夫～

これまで

生涯学習振興・社会教育関係職員等研修や地域課題対応研修支援での実践で作成した教材を、一般化してホームページに掲載している。

※一般化することによって、実際に使用している状況や活用している内容が逆にわかりにくくなってしまっていた。

これから

○ eラーニング（自主学習）機能のページの作成

・隙間の時間を使って、学習をすることができる。

隙間の時間を使い学ぶことができるように、一つのコンテンツを15分程度で聞き終えることができるよう、音声付のデータをホームページに掲載する。

・研修の事前学習として活用できる。

集合型の研修に参加する際には、事前に視聴してもらうようにする。最低限の基礎知識を把握した上で、受講してもらうことができるので、研修内容の理解が更に進むと考える。

○ パンフレット機能のページの作成

・様々な研修に関する情報を収集することができる。

他の自治体でどのような研修が、どのような内容で行われているかを知ることで、自分の自治体に必要な研修を考えることができる。

参考文献

- ・ 「参加体験型学習ハンドブック」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編 平成21年3月。
- ・ 「社会教育計画ハンドブック」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編 平成23年7月。
- ・ 中野民夫「ファシリテーション革命 参加型の場づくりの技法」岩波アクティブ新書 2009年。
- ・ 中野民夫 森雅浩 鈴木まり子 富岡武 大枝奈美「ファシリテーション 実践から学ぶスキルとこころ」岩波新書 2009年。
- ・ 香取一昭・大川恒「ワールド・カフェをやろう 会話がつながり、世界がつながる」日本経済新聞出版社 2013年。
- ・ フラン・リース「ファシリテーター型リーダーの時代」プレジデント社、2002年。
- ・ 苅宿俊文・佐伯胖・高木光太郎「ワークショップと学び1『まなびを学ぶ』」東京大学出版会、2012
- ・ 苅宿俊文・佐伯胖・高木光太郎「ワークショップと学び2『場づくりとしてのまなび』」東京大学出版会、2012
- ・ 苅宿俊文・佐伯胖・高木光太郎「ワークショップと学び3『まなびほくしのデザイン』」東京大学出版会、2012
- ・ 堀公俊「今すぐできる！ファシリテーション～効果的なミーティングとプロジェクトを目指して～」PHPビジネス新書、2006
- ・ 「参加体験型学習ハンドブック」国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編 平成21年3月
- ・ 広島県立生涯学習センター研修コンテンツ「参加型学習の基礎知識」